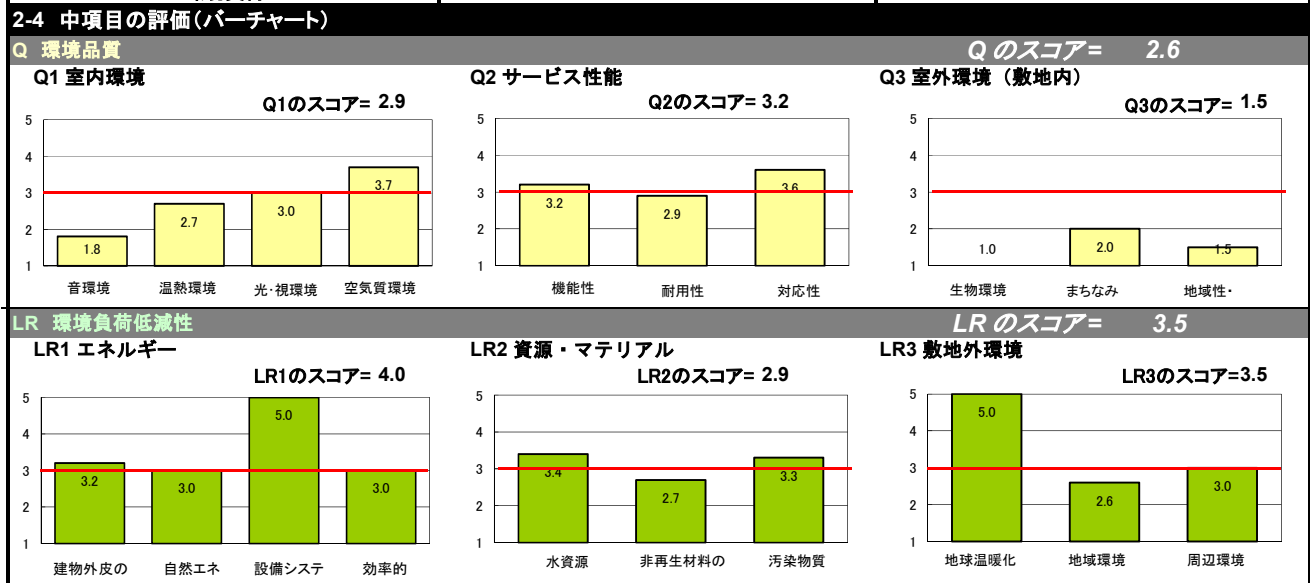
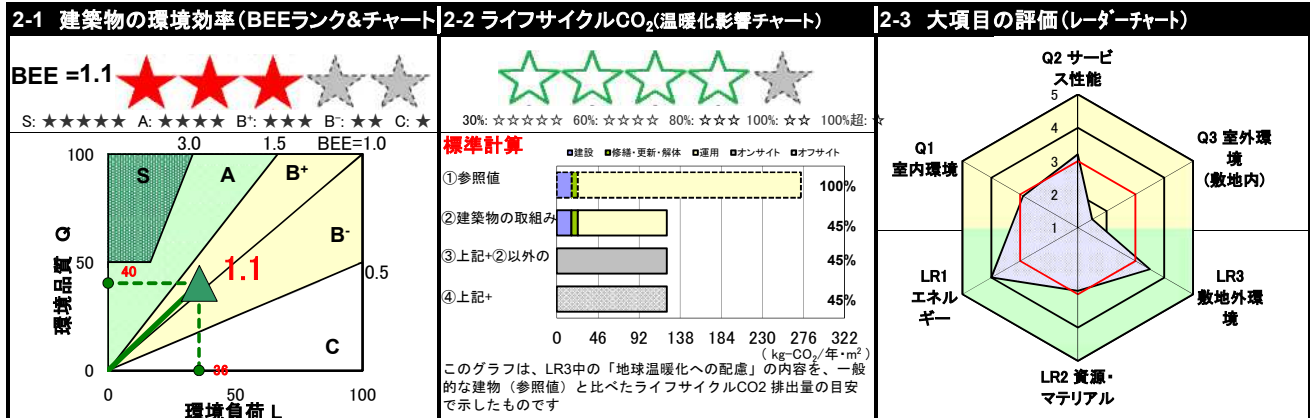


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	スーパーセンタートライアル浜松若林店	階数	地上 1F
建設地	静岡県浜松市中央区若林町400-1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	3,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年10月 竣工	評価の実施日	2024年10月24日
敷地面積	14,676 m ²	作成者	㈱河村佐藤デザイン
建築面積	5,020 m ²	確認日	
延床面積	4,938 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡 (2021年SDGs 対応版) による評価結果です。		その他 特になし
Q1 室内環境 ・ F☆☆☆☆建材を使用 ・ 喫煙所を設け、施設内の空気質環境に配慮した。	Q2 サービス性能 ・ 階高にゆとりを持たせ、建物自由度をたかめた。 ・ 設備システムはメンテナンスを考慮した計画とした。	Q3 室外環境 (敷地内) ・ 作業室の排気口を屋根面に向け、空気質感を考慮した。
LR1 エネルギー ・ 屋根材に断熱性能のあるものを採用した。	LR2 資源・マテリアル ・ 断熱材はすべてノンフロンとした。	LR3 敷地外環境 ・ 適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、出入口附近での車両の軌跡検討を行い、周囲の交通負荷軽減に配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要

建物名称	スーパーセンターライアル浜松若林店	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	-------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.7 /5	    	ふつつ 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.8 /5	    	がんばろう 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.0 /5	    	ふつつ 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.1 /5	    	がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上 
			がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.7
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④空調・給排水配管の耐用年数が40年以上の物を採用。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤植栽条件に応じた緑化づくり。	Q-3 1 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2 ⑩	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪省水型機器の採用。 ⑫躯体と仕上げ材が容易に分別可能(LGS下地)。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策として高効率設備機器を採用した。		LR-3 1 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	2.8
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.0
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑敷地周囲の境界へ見通しのよいフェンスを設置した。	Q-3 3 3.1 ㉑	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.1
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) 特になし	Q-3 1 2 3 3.2 ⑥	⑥ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) 特になし	LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善